

## 中学部の実践

# 確かな生活力を身につけさせる 学習はどのようにしたらよいか

### 1 取り組みについての基本的な考え方

昨年は、表現化に視点をあてながら社会化を目指す学習が効果的に展開されるためには、どのような手だてを講じればよいか焦点を当てて実践した結果を報告した。しかし、このことが果たして生徒に確かな生活力として身についた学習となったかという反省に立った時、いくつかの問題点に打ち当たった。

そこで本年は、今一度、表現化に視点を当てた社会化を目指す指導はどうあればよいかについて、原点に帰りながら、学習内容の取り上げ方や学習の場の設定、確かな生活力として育てていく方法、集団活動のさせ方などの問題について実践を重ねた。

このことを実践した事例に即して具体的に述べてみると下のようである。

- (1) 中学部の学習は、「ぼくは(私は)中学生になった。」この意識を大切にすることでスタートする。社会化の学習の始まりである。生徒たちには身近かで、しかも小さい集団の中で、その一員としての役割が果たせるように表現力を高めていかなければ、社会化を目指すことは不可能だといわなければならぬ。

生徒たちにとって最も身近かで小さい集団のひとつに家庭がある。従来から家庭生活の自立は大切だと言われながらも、学校現場では取り上げられることが少なかった。指導の範囲の問題や主体性の問題など困難なことが多いためであろう。しかし、今後の養護学校教育にとって、生徒たちがまず家庭の一員としての役割りを果たしながら、その生活に適應できるようになることは、重要な課題であると考えなければならない。

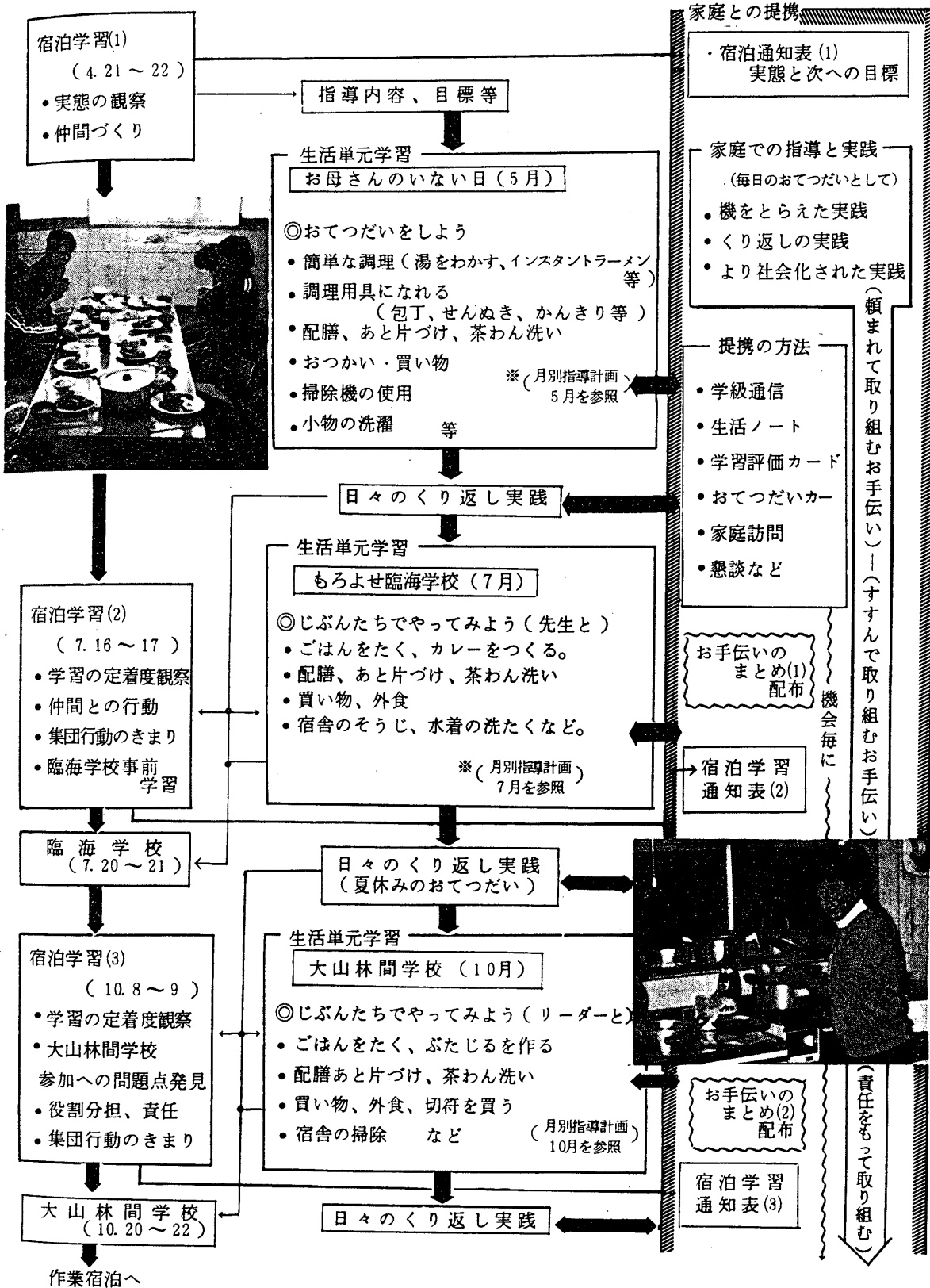
- (2) 学習内容や学習の場の広がりの中で、社会化に必要な技能や態度をどう育てていくかということも大切な問題である。社会化に必要な意志交換能力、移動能力、余暇利用の能力や、買い物、家庭生活、交際などの生活的な表現能力を高め、さらに、集団生活の中でその能力に合わせて分担した役割りに、責任をもってやりとげようと努めること。集団の活動に協力したり、役に立とうとする態度を育てることは最も大切なことだと言われなければならない。

- (3) いろいろな集団活動を通して、すすんで自分たちの問題解決に取り組む意欲を育てながら社会化を目指させたい。ここでは能力に合わせてリーダーシップ(意見を発表したり、中心となって活動するという段階かも知れない)やパートナーシップ(手伝う。協力する。自分の役割りを果たすということになるかもしれない)を体験しながら集団への所属感を強め、自分の能力を生かして「すすんで」取り組む積極さを育てていきたい。

とくに、このためには、学年・学級編成のグループに偏ることなく、いろいろなメンバーでの集団活動を通した多面的な体験の積み重ねの中から社会化を目指させたい。



宿泊学習を節にした学習の流れ



① 学級通信—指導方針、方法、留意事項、子どもの様子などをわかりやすく伝える。

家庭での指導は、次の事に心を配りましょう。

① おいてつだいありがとう。とても助かった」という感謝のことは必ずかけて、「この次もやろう」という気持を培って終りましょう。

② 失敗しても、心を傷つける不意なことは決して使わないようにしよう。

③ 失敗を恐れて、すぐ手を出してしまわないで、「啾啾」して待ってあげよう。失敗から手ばかりをつかむ事も入事です。


④ 毎日同じ方法、同じ評価を基本にしてくり返そう。その中に、つまづき、手だてを見つけたら、すぐ連絡し合おう。

⑤ ロで教えないで、

- ・ やってみせる
- ・ 一緒にやるとしてやる
- ・ 見ていてやうせ、「よし」と 自信を培たせる

な・か・ま・ 16号 . 56 . 5 . 28

お母さんの修養は、  
「あすね、がんばって!」



② 生活ノート

③ お手伝いカード

母の日に、お手伝いへの動機づけを兼ねて「何でも手伝うよ」と、このカードをプレゼントしたのを発端とし、以来ずっと続いている。



—お手伝いカードのグラフ—

して欲しいお手伝いをカードに記

入(母)→指示されたお手伝いをする(子)→お手伝いの様子をカードの裏に記入し、感謝して子供に渡す(母)→学校に持ってくる→みんなの前で誉められる→得点グラフにはりつける→友だちと比べて競争する→の流れをくり返している。お手伝いの内容は、学校の連絡や母親の機転によって、学習内容の実践や継続練習の内容がとり上げられている事が

個別的提携の中心的パイプ役。毎日の学習の様子、手だてを連絡し、通信欄では情報、意見の交換をする。日々家庭から届く情報は、学習の反省、動機づけに生かされ、学習意欲の喚起、個別配慮への大切な役割を果している。

(生活ノートの1部)

— — —	し し し	し し し	学習したこと
買 作 買	あ あ あ	の キ あ	よ ケ リ
た り た	た た た	た た た	う う う
た た た	た た た	た た た	す す す
た た た	た た た	た た た	評 評 評
た た た	た た た	た た た	価 価 価
た た た	た た た	た た た	手 手 手
た た た	た た た	た た た	だ だ だ
た た た	た た た	た た た	て
→家庭	家庭→学校		

多い。母親の意欲をつなぎ、機転を育てる意味で集ったお手伝いカードの内容や取り組みの様子を「お手伝いのまとめ」として、冊子を配布したところ、「他の子どもさんの事がとても参考になる」と、好評だった。子どもたちは、誉められ、チャンピオンコーナーまでカードがときどき、ごくろうさんの賞をもらうのをはげみにしながら、お手伝いに取り組んでいる。最近（11月）は、お手伝いの方が先行し、その記録にカードが使われている傾向が強い。

④ **評価カード** → 指導はできるだけ定形化をはかり、学校と家庭は

⑤ **宿泊学習通知表** 一貫性をはかる必要がある。指導の手順に沿って、細かく項目を設定したこのカードは、実態の連絡だけでなく、指導の手順、ポイントを知ってもらうために有効である。家庭でも同じカードで評価してもらい、学校に届けられ、指導に役立っている。

下の写真は、宿泊学習の最終日の反省会の場面である。自分、友達、先生の評価のずれの中から、「何が」「なぜ」を



話し合い、通知表に記入し、次の学習への課題、目標として家庭に持ち帰らせ、親子の話し合いの場を持たせた。節とした3回の宿泊学習通知表を並べてみると、7ヶ月の足跡をかなりはっきりたどる事ができる。

—「私、がんばりましたよ」—



⑥ **家庭訪問、懇談**

家族とのレポートを作り、共通理解、協力を得るために、お手伝いの場や近所の様子を知

って子どもの活動のイメージが浮かぶために、改善して欲しい場所、道具などを見つけるために家庭訪問（年4～5回）、懇談（月1回）をはじめ、日々の電話懇談を大切にしている。

くつ下の洗濯ができるまで、評価カード(1)回目	
すること	評価、ようす
1. よごれを見つける	○
2. よごれに石けんをつける	△石けんに力が入らず
3. もみ洗いをする	×だんごを作るように
4. 水が澄むまでゆすぐ	△教えることができた
5. かたくしぼる	○
6. しわをのして干す	○
7. 洗濯ばさみではさむ	×上下に7こもつけ

8. くつ	買い物（スーパー）評価カード(1)回
感想	9. タン
	1. 買ったもの、ねだん
	2. かごを取りに行ったか
	3. 買う物、売り場がわかったか
	4. 値札、値段を意識したか
	5. 支払いはできたか

※ △や×には、必ずその理由を明記してください。

(2) 実践の経過

① 個人目標の見きわめ

(i) 学級生徒の実態 (中学部1年、3名) (56. 4.)

	C.A.	I.Q.	M.A.	S.A.	特記事項
Y男	12:10	55	7:1	7:9	・母と2人暮らしで、家事はかなりできる。横着な面もある。
Y子	12:3	55	6:9	7:3	・レンノクス症候群、過保護、自己主張が強くわがまま。
T子	13:8	35	4:9	6:6	・生活経験が乏しく自信がない。人の後について行動。

(ii) 家事にかかわる技能、態度の実態 (56. 5.)

家事の実態

name	Y男	Y子	T子
評価	①②③	①②③	①②③
1. 寝具の準備・しまつ	■	■	■
2. 配ぜん	■	■	■
3. 茶わん洗い	■	■	■
4. 湯をわかす(ガス)	■	■	■
5. 簡単な調理	■	■	■
6. 缶切り、栓ぬき	■	■	■
7. 包丁の使用	■	■	■
8. 米をとぐ	■	■	■
9. 掃除	■	■	■
10. 洗濯	■	■	■
11. おつかい、買物	■	■	■
12. とりくみ意欲	■	■	■
13. 家庭生活への参加	■	■	■
14. 責任、自覚	■	■	■
①-指導しなくてもおてつだいができる・ある ②-少しの指導、援助でおてつだいができる・すこし ③-できない、なし (-5月 ---- 11月)			

左の図表の黒塗りの部分は、4月の宿泊学習の観察、家庭生活の実態調査を参考に家事にかかわる技能、態度をまとめた物である。この実態を、個人の興味、家庭の実情等と考え合わせ、重点とする学習内容とお手伝いの目標を次のように決定し、懇談によって母親と共通理解をした。

	重点とする学習内容と目標
Y男	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物(値段、合計、おつり、報告)</li> <li>・身体を使い、力のいる仕事(掃除、寝具の始末、道具の手入れ、片づけ等)</li> <li>・手伝いに責任を持たせる。</li> </ul>
Y子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物(1品〜、値段、支払への関心)</li> <li>・調理に関する仕事(好きな事への取り組みから意欲と安定をめざす)</li> <li>・手伝いをする楽しさ、喜びを持たせる。</li> </ul>
T子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台所の仕事(簡単な事から一つずつ取り組み、得意な物を作っていく)</li> <li>・お使いから買い物へ(お金を持つて)</li> <li>・手伝いに関心と喜びを持たせる。</li> </ul>

～母親の反応～ (Y子の母の生活ノートより)

……何に力を入れるか目安が良くわかりました。父親は1年に1つずつできるようになれば良いと言いますが、私はあれもこれとも思い、結局身につきません。お話を聞いて、安心して取り組んでいけそうな気持ちになりました。手はじめに近所のスーパーにお使いを… (後略)

以上のように個人の目標を設定し、それをめざして学習を展開し、家庭との提携をはかりながら指導を進めていった。その中から、T子が台所仕事に積極的に、しかも少しずつ確実に取り組めるようになり、学級の中でも活発になっていった経過について述べてみたい。

② 簡単な調理への取り組みにおけるT子の実践事例

(i) T子の簡単な調理にかかわる技能・態度の実態と家庭連絡

次の表は、T子の第一回宿泊学習通知表の台所仕事に関する部分である。この通知表は学級通信（なかま、11、12号－宿泊学習速報）と合わせてT子の家庭に届けられ、懇談を経て、T子の学校と家庭での指導がスタートした。



－「火がつきませんよ」－

内容	評価	がんばってほしいこと
食 事 づくり	◎	○ガスに火をつける。○米をとぐ、電気釜をセットする。 ○包丁、皮むき器を使う。○母の側で何でもてつたう。
配せん	◎	○人数分をきちんと分ける。○ごはんをこぼさない。 ○汁わん、茶わんの持ち方○おちついた動作。
あ と 片づけ	◎	○ゆすぎをていねいにする。○洗いおけを使う。 ○水を床にこぼさない。○ふきんのしまつをする。
先生 の 感 想		調理の経験がほとんどありませんね。どうしたらいいのかわからなくて、友達にまかせて 見ている事が多くありました。台所でのしごとにとっても興味があるので、いろいろな事ができるようになれそうです。どんどんとりくませましょう。


～T子の母親の反応～（生活ノートより）

今まで危ないといって、ガスも包丁もさわらせていません。通知表を見て、人の世話にならないで、人のために役立つ子どもに育つために何をしなければならぬか、よくわかりました。こんどの宿泊学習までには、ガスと米とぎぐらいがんばってみます。〔家庭→学校〕

(ii) T子の簡単な調理への取り組み経過（5月～11月）

月 日	学習内容、回数、経過	手だて、様子、家庭との連絡、提携	家庭での取り組み
5/18	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">湯をわかす (ガスの点火)</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>ひとりではできない</li> <li>紅茶、ラーメン作りと合わせて7回学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>つまみを押したまま廻せない。</li> <li>押した時気合を入れ、タイミングをつかませ（<u>手を持って</u>）、<u>反復による体得を</u>。</li> <li>着火しなくても元にもどさないのが危険。</li> <li>必ずお母さんと一緒に練習する事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>紅茶、ラーメン作りと合わせて6回報告あり（お手伝いカード）</li> </ul>
6/1	<ul style="list-style-type: none"> <li>1回で点火成功(家)</li> <li>以後ほとんど成功</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">紅茶をする時、ひとりで、1回でガスがつかまりました。喜びいっぱい『ガス』の字に赤丸をつけました。初めての経験にぶつかり、苦労する中に喜びを見つけ成長して…(略)〔家庭→学校〕</div>	

5/2 ↓	T子ちゃんが点火に成功したお祝いを紅茶でしました。点火はもちろんT子ちゃんです。「ようする、うちでもした」と、はり切って点火し、確かに1回でOKでした。〔学校→家庭〕	・瞬間湯沸器を母の指導で使いはじめる (11月)
----------	-------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------

5/8	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <b>カップラーメン</b>          ・ひとりで作れない          ・買い物と合わせ(3回)       </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分で作る」という意識がない</li> <li>・「自分で」を強調、見よう見まねで</li> <li>・全く援助しないで気付かせ、模倣させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母にラーメンを作ったあげたがる。</li> <li>・ガスの点火、煮え具合の判断「3分待つ」が難しい。</li> <li>・3回練習の報告(評価カード)あり。</li> </ul>
6/8	<p>友達が作る後ろをうろろろして、自分で準備して作ろうとしない。1人残って、はじめて自分で作ることに気付く。ガスの点火が困難。沸騰したやかんがこわい。3分がわからない。消火してやかんをおろす事、「母さんの歌」を6回歌ってからふたをはぐる事を指導する。〔評価カード〕→家庭へ</p>	
6/8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとりで作る。(学校、家)</li> </ul>	<p>「夕食はいらん、ラーメン食べた」というので、「湯をわかして」と聞くと、「うん、学校でもできた」といい…(略)学習が生活に生きたうれしさに、私も作ってもらいました。〔家庭→学校〕</p>
6/17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・煮込みラーメンをひとりで作る(家)</li> </ul>	<p>なべを使って、煮込みラーメンを作って食べました。友達や私が作るのをみて覚えたのでしょうか。ガスがつけられだしてから、あれこれとやる気が出てきました。〔家庭→学校〕</p>
6/13	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎「1日お母さん」で煮込みラーメン、紅茶のサービス(家)</li> </ul>	
6/27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弁当を忘れた友達の分も煮込みラーメンを作る(学校)</li> </ul>	
6/13		<ul style="list-style-type: none"> <li>・お手伝いカードに「ラーメンを作って下さい」が続く。(6月~7月)</li> <li>・時々、お手伝いカードで報告あり。すすんで作れている。(10月、11月)</li> </ul>

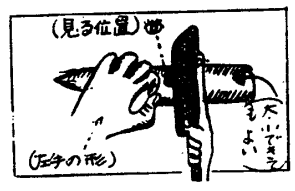
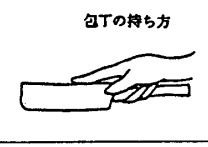
4/22	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <b>皮むき器、包丁を使った調理(カレを中心として)</b> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎「第一回宿泊学習」</li> <li>・お手伝いとして部分的に参加。</li> <li>・包丁使用は難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すすんで取り組まない。</li> <li>・皮むき器の刃の位置がわからない。</li> <li>・包丁の刃が斜めになる。大小の乱切り。</li> <li>・左手で押さえるのがこわい。</li> <li>・左手の指を伸ばさない(猫の手)を指導</li> <li>・手をとって練習させ、体得させる。</li> <li>・母の側で見る機会を多くし、慣れさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母親が手をとって指導</li> <li>・家でも包丁を使いたがり、みそ汁のじゃがいも、ねぎを切るお手伝いを時々する。(5月~7月)</li> </ul>
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



6/3  
7/4  
7/6  
7/30

- ◎「給食のない日」で3回学習
  - ・包丁に少し慣れる。
- ◎「カレー（臨海学校の献立）作り」
  - ・指示、援助を受けて一通り参加（3回）
- ◎「カレーコンクール」（ひとり1なべ）
  - ・見よう見まねで、ひとりで作る。
  - ・包丁がまだ危ない。
  - ・盛りつけが雑
- ◎「第二回宿泊学習」（3人で相談して）
  - ・作業量は少ないが、友達と一緒に作る。
  - ・大分見通しを持って取り組みだす。
- ◎「臨海学校」（仕事を分担して）
  - ・じゃがいも、玉ねぎを切る、いためる、煮る、ルーを入れる等、カレー作りのほとんどを責任を持ってやりとげる。
  - ・積極的な取り組み、盛りつけが、はじめてきれいにできる。

- 包丁を使う時、必ず気をつけて（家庭へ）
- ① 半分に切って安定させた物を切らせる。
  - ② 大小できても可とする。手を切らないよう、見る位置の指導を。
  - ③ 左手の指の形をきびしく。
  - ④ 安定した包丁の持ち方励行



- ・危険場面以外、一切口出しせず
- 作らせ「ひとりでできる」自信を持たせる。
- ・誰かに食べてもらい誉められるの意図で、次に示す学習を展開した。

- ・I先生にほめられた事を報告。
- ・「ひとりで作れる。宿泊は大丈夫」と言う。

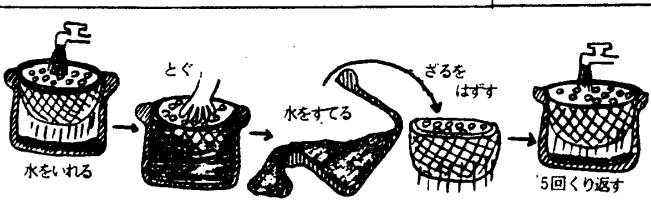
○ 題材名 「カレーコンクール」…2時間  
 約束  
 ・カレーを2皿作る。（自分の、コンクール用の）  
 ・誰も手助けしません。自分で作ること（判らない時はきく）  
 ・作った人から食べてもよい。  
 ・審査員…お母さん、I先生



教師の指示	Y子の活動、反応のようす
1 カレー作りにいる物を全部揃えなさい。 2 揃ったと思う人は、作りはじめてください。	1 S先生、T男のようすを見ながら、全部揃えた。非常に意欲的。 2 皮をむく…にんじん、玉葱の頭や尾を切らない。皮をちらかす。
3 お皿に盛って食べてください。	切る…約束は守ろうとしているがよくよそ見をする（自信がない）3cm～4cm四方、かなり大きい。 煮る…野菜をいためたあと、水をいつでも入れようか迷う。 ・煮えたかどうかしらべるのにのぞいて見るだけ。 ・自信はないが、見よう見まねでがんばっている。 ・ルーをちゃんと準備して待つ
4 あとしまつをしてください	3 ・人の皿に入れる（自分で用意していない） ・グリーンピース、つけ物を手でつまむ ・注意されて少しすね「腹が痛い」という「おいしい」といわれ、とても喜ぶ。 4 洗いがよくないが、がんばってとりくむ。



- ・「絶対にこぼさない」の指示で緊迫感を持たせ、集中させること。こぼさないで盛りつけができた。
- ・夏休み中6回、9月に2回カレーを作る。（お手伝いカード）

<p>1/3</p> <p>↓</p> <p>1/8</p> <p>↓</p> <p>1/21</p>	<p>◎「ふた汁(大山林間学校献立)作り」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カレー作りと合わせ3回学習</li> </ul> <p>◎「第三回宿泊学習」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カレーの責任者として、ひとりで作る。要所の判断に迷うが大体作れる。</li> </ul> <p>◎「ふた汁作り」に参加(3回)</p> <p>◎「大山林間学校」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2、3年と一緒にふた汁を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洗う、切るに主眼をおく。(やや小さく)</li> <li>・同じ材料を生かしてカレーも作れる事を<u>実際に作らせて納得させた。</u></li> <li>・大小はあるが、包丁の扱い方がリズムカルになってきた。→時々雑になり注意</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台所で包丁を使ったお手伝いがふえる。</li> <li>・母の留守に、ばけついっぱいじゃがいもをむき、切る。(思いつきで)</li> </ul>
		<p>責任を持たせ、はげますと、とてもはり切って取り組みました。作り方も覚えて、次の準備をして待つ等、見通しを持っています。「煮えているか」「ルーを入れても良いか」といった判断に、もう少し自信がありませんが、「問わせる」→「T子はどう思うか聞く」→「T子が結論を出す」方法をとりました。答えは大体正しいです。あとは慣れによる勘と自信です。〔学校→家庭〕</p>	
		<p>ふた汁作りで、一年生がじゃまという事は決してありません。むしろ偉大な働き手です。何をしても腰が入っているのです。日々のお手伝いにくり返しの実践のたまものです。(学級通信なかま 52号、大山速報)</p>	<p>兄が「カレーが食べたい」と言うと、「私が作る」と、作りました。手順がすっかり自分のものになっていました。(,11月)〔家庭→学校〕</p>

<p>1/18</p> <p>↓</p> <p>1/4</p> <p>↓</p> <p>1/4</p> <p>↓</p> <p>1/30</p>	<p><b>ごはんを炊く準備</b></p> <p>◎「第一回宿泊学習」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題点が多くあり、ひとりできない。</li> </ul> <p>◎米をこぼさないため</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ざるを使用してとぐ</li> <li>・以後、米とぎはT子の仕事として分担</li> </ul> <p>◎「いっぱい」がはつきる分る道具の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意識し、丁寧になる</li> </ul> <p>◎計る量を誤らない様</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>番号を打った紙コップを補助具に使用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米をこぼす。・コード、スイッチが扱えない。・水と一緒に米をこぼす。・米や水のカップ一杯が不定。・数(4以上)を正しく数えられず量をまちがえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米をよくこぼし、叱られる</li> <li>・第二回宿泊学習まであまり取り組まず。・本格的に練習開始。</li> </ul>	<p>練習回数</p> <p>↓</p> <p>⑬</p> <p>↓</p> <p>⑭</p>
				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・カップの口を赤くぬり、見やすくし、色で意識の強化</li> <li>・水道の勢い止めるタイミングを体得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と同じカップで</li> <li>・「たったこれだけの工夫が…」と驚かれる。</li> </ul>	
		<p>紙コップは単なる簡便法と考えていません。数の具体化の反復によって、数の壁を破ろうと、一挙両得を願っています。この事が、～合を計量できる近道と考えて…〔学校→家庭〕</p>		

<p>◎放課後等も、練習に 取り組む(計28回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• コップが番号順に並べられる(9回目)</li> <li>• コップを使えば、まちがえない(18回目)</li> <li>• コップに入れなくても、コップの番号を見ながら数えて計る事を知る。(25回目)</li> </ul>	<p>① 計る米の数だけ紙コップを並べる。➡</p> <p>② 1から順に 米を1合ずつ入れる。➡</p> <p>③ 紙コップの米をざるに移してとぐ。</p> <p>④ 同数のカップに1合ずつ水を入れ、釜に入れる。おまけ2</p> <p>⑤ どの動作も、声を出して数える事。</p>	
<p>◎「大山林間学校」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• コップを使い、援助されないでできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 紙コップを準備品の中に自分で入れる。</li> <li>• 自信を持って、自分の友達の班の米を準備。➡</li> </ul>	
<p>◎「全くひとりで、誰もいない内に」する。</p>	<p>用事で出かけている間にすませていました。悪いけど計りなおしてみると きちんとありました。うれしかった。〔家庭→学校〕</p>	

以上、簡単な調理(湯を沸かす、ラーメン、カレー、ご飯の準備)について、事例中のアンダーラインで示した やってみせる、一緒に手をとってする、くり返し実践し体得させる、まかせて自信を持たせる、手だてや補助具を工夫するを指導の基本とした実践を述べてきた。

どれも当り前の指導法である。しかし、「ご飯を炊く準備」= T子が運動感覚機能、数量能力等の基礎になる力の不足から、単なる反復では、3ヶ月に亘る取り組みでもできなかった事が、手だて、補助具を使った反復によってできた。= の事例では、当り前の事とはいえ、手だて、補助具の開発の重要性を痛感させられる。

Y子のつまづきをもっと的確に見きわめ、不足している表現力をカバーする工夫をしていけば、やりたくてもできない事が もっとできるようになる事、そしてその事が、時機を得た指導によって 一般化された方法へ移行するための近道になるのではないかと考える。

(iii) 簡単な調理などのお手伝いのくり返しによって、T子がどう変ってきたか。

⑦ 技能や態度の向上がみられ、生活の中で活用されている。

次の表は、T子の調理にかかわる実態4月と11月を比較した物である。T子の調理での技能と態度の向上がよくわかる。同じ事がP60の家事の実態の表からもわかる。この向上した技能は、母親の適切なお手伝いへの指示と、T子の積極的な取り組みで 日々の生活の中に活きている。

T子の調理の実態表

T子の調理の実態	内 容	4月	11月	内 容	4月	11月	内 容	4月	11月
	調理への関心	○	○	包丁の使用	×	△	茶わんの洗い方	△	○
	ごはんを炊く	×	○	皮むき器の使用	×	△	指示をきく見通	△	○
	道具等の洗い方	○	○	缶切り、栓ぬき	×	△	見通しを持つ	×	△
	野菜等の洗い方	△	△	盛りつけの仕方	×	○	家庭での取り組み	×	○
	ガスの点火	×	○	配膳の仕方	×	△	母親の期待度	×	○

④ いろいろな生活や仕事に、自分からすすんで取り組もうとし、活発になっている。

右の表は、宿泊を伴う行事でのT子の

積極的なとりくみ

活動の状況を「積極的な取り組み」という観点からまとめた物である。回を重ねる毎に、友達の中で活発に活動している事がわかる。

T子は、自分からほとんど行動せず、発言も少なく、言葉にも遅れがあり、養育訓練では言語治療のグループで指導を受けてきたが、いろいろなお手伝いができるようになり、自信がつくにつれて、言語活動も活発になり、級を解いた合同学習でも積極的な発言がみられている。

⑤ 家庭生活への参加が積極的になり、よく話すようになった。

T子の家庭での変化について、父・母・

兄がアンケートに答えられた物をまとめると、次の様である。

- おつかいがよくわかるようになり、いやがらなくなった。• 伝言が大体伝えられだした。
- 間にも答え、よくしゃべるようになった。• ごろごろする事が少なくなった。
- てきぱき行動し、手がかからなくなった。• 近所の人へのあいさつが良くなった。
- 家事の手伝いを自分からすすんでやるようになり、とても助かる。
- 兄のいう事もよく聞き、兄の物を勝手につかなくなかった。• 兄弟仲良くなってきた。

以上、T子の学校生活、家庭生活の様子について述べたが、T子が少しずつ広い集団へも、積極的に自己を表現しながら参加していけるようになり、役割での取り組みからも、手がかからない存在から、だんだんなくてはならない存在へ変ってきつつある事がわかる。

### 3 より社会化される実践をめざして

#### (1) はじめに

「家庭・学級の中で、お伝いとして援助を受けながら……」をスタートにした実践の繰り返し、技能、自信、意欲を高め、次第に「学級・学部の集団の中で、自主的に責任を果たしながら……」と、少しずつ社会化の広がり、深まりをみせていく事が前述の事例からもうかがうことができる。

学年の指導の重点に示されるように、学年が進むにつれてその広がり、深まりは意図的に学習展開の中にもりこまれてくる必要がある。

1年生がお手伝いを基盤にして、基礎的な技能、自信、意欲を高めていったのに対して、ここではそれらを土台にして、自分たちがすすんで食事作りを楽しんだり、家族や友だちの食事作りなど、みんなの役に立つ活動に結びつけて、社会化の広がり、深まりに迫っていったとした実践について述べてみたい。

食事作りは、種々の生産活動の中でも自分の自由な創意が生かされる活動であり、職業化でめざす態度の育成の上に、おおいに「楽しむ」ということが許される。しかも自分だけが「楽しむ」ばかりでなく、人に「喜んでもらえる」活動にもなり得るという点で、社会化に必要な態度を育てていくことにつながってくる。

そこで、まず生徒自身が食事作りを「楽しむ」こと。そして楽しみながら技能を高めていくこと、それがとりもなおさず、より社会化されていくための土台であると確信して実践した。

#### (2) 楽しい食事づくりのために

##### ① 細かいことにあまりこだわらない

とにかく「楽しい」ということは何にもまさる意欲づけである。そのためには

『食べられる大きさに切られていけばよし』

『中身がやわらかく煮えていけばよし』という具合で、できるだけ切り方や中身を入れる順序等にこだわらず、適当にすませれるところは適当にする。なんとなくいい加減のようであるが、実はこれが調理ぎらいにならない大事なことと思われる。生徒たちには何より『調理は難しくないもの』と感じさせることが「楽しさ」の根源であるから。

##### ② 指導者も楽しみ、笑顔で対応する

生徒たちに「楽しさ」を感じさせるためには、指導者自身が楽しみ、共感させていくことも大切である。

また、①のように思い切ると、口をいちはさはむことも少なくて済み、笑顔で指導しやすくなる。特にこの生徒たちの場合、細かいことを言えば言うほど意欲をなくするので、

危険のない限り口をはさむことは避ける。それにひきかえ、承認や賞賛は多くする。平凡な手だてではあるが……。そうすることが、生徒たちが安心して能動的に活動することにつながる。

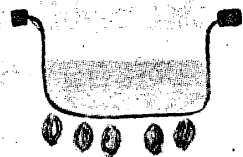
③ 主体的に動けるように調理図の準備をする。

作りながらひとつひとつさしずをしていくのでは、全体の流れが生徒たちにわかりにくいしなにより『指示をされなくても自分でわかり進んで動ける』というのも楽しむための一つの条件であるので、あらかじめ図によって作り方の説明をしたり、あるときは生徒たちに図を見せながら順序を考えさせたりして、活動の見通しがたてられるようにする。

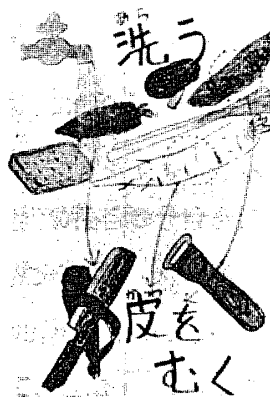
〈例〉 ふた汁作りのとき

1.

なべに水を入れて  
火にかけよう

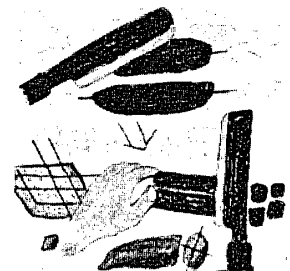


2.



3.

野菜と肉を  
食べやすい大きさに切る



5.

4.

切った野菜は  
ザルやボールにきちんと入れておこう



肉と野菜を入いこう  
(LINEアップ)



④ 後始末を常に心掛けさせていく

『調理をするのは好きだけれど、後始末がめんどうだから……』こうなってしまっっては、調理がらいになるのは時間の問題である。『調理上手は後始末上手』を合言葉に、できるだけ作っている過程で不必要になった器具はどんどん片づけていくよう心掛けさせる。そうすると、いかに食べる段階で器具を残さないかを自分自身の課題にして、楽しみながら片づけていくことができる。時々、見通しがきかなくて、まだあとに使うものまで片づけてしまい、また

出すということもあったが……。

(3) より社会化される実践をめざして

(2)で述べたような楽しい食事作りも、その実践が少なければその時だけの「楽しかった。」で終わりになり、自信を生むことにはつながらない。ましてや、家庭生活に生かすことには到底つながらないだろう。

楽しい食事作りを基盤にしなが、できるだけ学校でも家庭でも実践を多くしていく必要があると考え、そのための積み重ねと家庭への協力を依頼していった。

○学校での実践回数 ( )内は回数 2年生女子の場合

一学期	5月 宿泊事前学習 (3) 宿泊学習 (2)	6月 生活单元 (3) 職業家庭 (2)	7月 臨海事前学習 (3) 臨海学校 (2) 職業家庭 (3)
二学期	9月 生活单元 (1)	10月 生活单元 (1) 林間事前学習 (3) 林間学校 (1)	11月 職業 (4) 12月 職業 (4) 宿泊学習 (8) 職業家庭 (1) 生活单元 (1)
三学期	1月 生活单元 (1) 職業家庭 (1)	2月 職業 (7) 宿泊学習 (8)	3月 生活单元 (3)

○家庭との提携を大切にし、繰り返しの実践と暖かい励ましの協力を願って

学校で実習をするたびに必ず作り方のプリントを持ち帰らせるようにした。

〈プリントのねらい〉 プリント例は次のページ

- 学校での実践と家庭での実践の仕方にくいちがいが起こって、生徒が混乱しないようにする。
- 学校と同様、家庭においても楽しい食事作りが基盤になるように、(2)で述べた指導上の留意点をもりこんでおく。
- 親子で楽しく読める。

〈家庭からの反応 —生活ノートより—〉

着替えが終わると さっそく夕食(ぶた汁)の準備にとりかかってくれました。皮むきは大変で、いつまでもけずるようなむき方です。玉ねぎは涙を出しながら、「だいじょうぶ、ぼくがんばる」といって最後までやり終えました。だしの素もいい手つきです。何事も回数を重ねることですね。おいしい洋風なぶた汁ができました。皆にはめられ満足そうでした。大山では自信をもってお手伝い出来ると思います。(K夫、2男の母)

〈プリント例〉 ふた汁作り

つくって簡単、食べておいしい <中級>  
 ふた汁をつくりましょう

◎ さあ、かんはるッ!  
 ・ エーロンつけて、手をきれいに  
 ・ 材料をそろえよう

ふた汁 (6人前)	
ふた肉	300g
ごぼう	中〜大 1本
しいたけ	4本
にんじん	中 1本
だいこん	大 1本
こんにゃく	1枚
ねぎ	5〜6本
しょうが	少々

これに  
 くだわらさ  
 家にある野菜も  
 入れちゃおう!

◎ お父さん、おはあちゃん、みんな待ってネ  
 ・ おなべに水を適量に入れる  
お水は少なすぎれば、ふた汁が  
 かわっちゃう

・ この中にきれいに洗ったしょうがを入れて入れる  
これは  
 フタ汁の  
 味を  
 出すよ

◎ さあ煮えた! 味をつけるヨ  
 ・ みそをやわらかくほぐしながら入れていこう  
 味みをして  
あまかたら……みそ入れて  
 かなかたら……水入れて

◎ お待たせ〜っ!  
 フタ汁を入れてさあいただきます!

お母さん、急かしてはダメ  
 待ってネ〜

野菜をきれいに洗って、食べやすい大きさに切って  
 ボルヤダるに入れておこう。

肉も切る

おなべをのぞいたら  
 ふた汁がうっすらと見えるよ

この中に肉と野菜、せーんが入れよう  
 (熱いお湯とぶくらの気をつけるよ)

せわめくになるまで待ちますよ  
 いいにおいがプーンとしてくるネ  
 クシウシ

この間に片づけのできるものはしてしまおう  
 いいですネ

よきときおなべのぞいてアツが出たら  
 取ってネ

無責任な書き方  
 でもいいよ

たしかに生徒たちは、一学期宿泊学習、夏の臨海学校、秋の大山林間学校と、それぞれに向けて食事作りを計画し、その学習においては食事作りを楽しむことはできた。そして家庭でもプリントに添って実践したようだったが、どうもそれは『少しでも練習しておかないと本番のとき困るから』というような親心からさせてもらっていたようで、本番が終わるともうそれっきり。あとは殆どやらせてもらっていないのである。ただ家庭が本番の学習のために協力したというだけで、生徒たちが学校での学習を積極的に家庭に生かすことになっていなかったのである。

繰り返しの実践から自信が生まれ、その自信がまた積極的に家庭生活に生かされる、そういう経過をもっと期待したかった。特に、昨年あるいは一昨年から経験をしてきた2〜3年生の女子には、なんとか家庭生活に積極的に生かさせたい、そう思わずにはいられなかった。



(4) 宿泊作業実習での実践 ——中2・S子と中3・K子の実践例——

そこで、次のように仮説をたて、それが実践できる機会をねらった。

- i もっともっと集中的に調理実習ができ、技能を高め、自信を持たせることができると、家庭においても『やってみよう』という意欲がわいてくるのではないか。
- ii できるだけ第三者的立場の人にも食べてもらい、感謝されることの喜びを味わうことによって、人のためにも『してあげたい』という意欲を喚起することができるのではないか。
- iii iとiiが成功したとき、そのことを家庭にアピールすれば、家庭からも協力が得られやすいのではないか。

以上の点から考え、ねらった機会が12月の2～3年生による宿泊作業実習であった。この実習は2年生（男子2名、女子1名）と3年生（男子7名、女子1名）が宿泊をして、将来の職業自立のために印刷と陶芸を通して勤労態度を育てたり、働く意欲の向上を図ることを目的としたものであった。

最初の計画では女子（S女とK子の2名だけである）は陶芸班として参加する予定であったが、ねらっていた条件にふさわしい機会であったので、中学部でこの方針を提案協議して、女子2名は家庭班として実施することになった。

① 中2S子と中3K子の実態

<p>S子 CA：14.6 MA：8.8 IQ：60</p>	<p>動作はかなりスローであるが、作業など黙々とまじめに取りくむ。指示に対して実に素直に従う。食べることに對しての執着はとても強く、調理実習は彼女にとって最も楽しい学習である。</p> <p>家庭では、母親の帰りが遅かったり、日曜日にも農作業等で忙しいため、一緒に食事作りをするということはない。</p>
<p>K子 CA：16.0 MA：8.8 IQ：55</p>	<p>よく気がついたり世話をしたり、クラスではお姉さんのような存在である。作業はめだつ仕事はよくするが、かげでの仕事やめんどろな仕事、汚ない仕事などは人に押しつけてしまうことがある。彼女にとっても調理実習は楽しい学習である。</p> <p>家庭でも時々しているが、姉たちにはそれをあまりよく思われていないため、やる気をそがれることがある。</p>

② 宿泊作業実習に向けて意欲を高めるために

印刷班、陶芸班ともに、宿泊作業実習のときをクライマックスにもっていくよう11月からの職業の時間はすべて事前の作業学習が計画された。家庭班としても、それに合わせて調理実習を計画し実践した。

その内容は次の表に示す通りである。

1/2(木)	1/8(水)	1/2(土)	1/6(木)	1/1(火)	1/3(木)	1/5(土)	1/8(火)
野菜 コーン スープ ソテー	紅茶 (市販) デコ レィス ボン ンジ ケ ー キ コ レ ー	ク リ ー ム シ チ ュ ー	ポ マ カ ロ ニ サ ラ ダ ソ テ ー	肉 プ レ ー ン オ ム レ ッ の た れ 焼 き	み そ 汁 ポ テ ト サ ラ ダ ハ ン バ ー グ	蒸 し パ ン コ コ ア	吸 い 物 マ カ ロ ニ グ ラ タ ン

〈生活ノートより〉

11月12日 S子の日記

今日はいいお天気になりました。職業の時間に料理でコーンスープと野菜ソテーを作りました。そのおいしそうな料理を男子(このとき2年生男子が試食)にもあげたら喜びました。私も食べたらいいしかったです。こんどの宿泊学習のときには3年生の男子にも食べさせてあげます。

12月8日(宿泊学習の前日) K子の母親より

宿泊学習は楽しい、料理をいっぱい作る、とても楽しみにしています。昨日荷物をそろえていましたが、今日も忘れ物がないかもう一度調べなおしていました。……

生活ノートからもうかがえるように、事前実習はその時だけでなく宿泊作業実習においても『がんばるのだ』という意欲に結びつけることができたように思う。

③ 宿泊作業実習での指導

宿泊作業実習中の調理計画表

1/9(水)		1/10(木)				1/11(金)		
おやつ	夕食	朝食		おやつ	おやつ	夕食	朝食	おやつ
蒸し パン	ごはん マカロ ニグ ラタ ン	ごはん ブレ ン ン オ ム レ ッ	ウイ ン ナ ー の ベ ー ク ン 巻 き	プリン	蒸し ま ん じ ゅ う	ごはん 焼 き 肉 と 野 菜 の た れ 焼 き	ポ テ ト サ ラ ダ ぞ う す い	市 販 ケ ー キ 紅 茶
◎◎	◎◎△ △◎	◎◎△○○◎		◎	◎◎/	◎△○○◎◎	△◎	/◎
既習調理……◎		応用料理……○		初めての調理……△				

家庭班として参加する3日間の宿泊作業実習は、調理実習を主体にしながらも、将来の家庭生活と似た経験をし得るという利点を生かし、実際に家庭生活をした場合に処理していかなければならない内容の一部を盛り込むことにした。多少、合目的々すぎてせっかちかも知れないが、いつかは通らねばならない社会化の一関門として経験させてみることにした。

④ 日程

第 1 日		第 2 日		第 3 日	
9:00	開始式 生活訓練室掃除 ふとん・まくらカバーかけ	6:45	起床、洗面	9:00	朝食のかたづけ
		7:00	朝食準備	9:30	生活訓練室掃除
		8:00	朝食		ふとん干し
10:00	買い物 出納簿記入	8:30	かたづけ		シーツ・まくらカバーの洗たく
		9:00	生活訓練室掃除		おやつ作り
11:00	ふきん作り	9:30	おやつ作り	10:25	休けい・おやつ
12:00	給食	10:25	休けい、おやつ	10:45	かたづけ
13:00	調理室掃除	10:45	かたづけ	11:30	お風呂場掃除
13:45	おやつ作り	11:10	買い物	12:10	給食
15:00	休けい、おやつ		出納簿記入	13:00	シーツ・まくらカバー
15:15	かたづけ	12:10	給食		のアイロンかけ
15:30	荷物の整理	13:00	新刊図書の整理	14:00	ふとんの整理
16:00	夕食準備	14:00	おやつ作り	14:45	休けい・おやつ
17:30	夕食	15:00	休けい、おやつ	15:00	終了式
18:00	かたづけ	15:15	かたづけ		
19:00	入浴、休けい	16:00	夕食準備		
20:00	反省会	17:30	夕食		
21:00	消灯	18:00	かたづけ		
		19:00	下校		

太字は調理実習に関連した内容である。

⑤ 実習中の活動のようす

この三日間、S子とK子は実によく活動した。食事やおやつたびに男子や先生に「おいしいなあ」「よーこれだけできたなあ」「ありがとう、またぼくやーもがんばるけKさんやSさんもがんばってよ」など、感謝されたり喜ばれたり……「どこにすわってもいいか」「食べてもいいか」「これは何をつけるだ、しょう油か」など、食事に関する権限をすべて認められたり……「ぼくのは肉まん、先生のは何？ハハハ残念でした、あんまんでした。」など、

自分たちの作った食事から楽しい話題がはずんだり……自分たちの存在価値をだれからも認められるその快さは、他の作業の原動力にもなり、はりきって取り組ませることができた。

彼女たちがいかにこの三日間、意欲的に実践し、喜びを持ったか、2人の生活ノートと家庭へ報告したもの（別紙資料）からはっきりと知ることができる。



おやつをみんなで食べているところ

12月10日 S子の日記

今日は料理を作ったりおやつを作ったり湖山ストアーに行きて買い物もしました。休けいもしました。ごちそうやおやつはみんながおいしいと食べてくれたらとてもうれしかったです。とてもくたびれました。



2人で仲良くグラタンを作っているところ

12月10日 K子の日記

……………こうとうぶの先生がおやつをたべにきました。おやつをだしてあげました。とってもよろこんでくれました。とってもうれしかったです。

……………

K子の母親より

宿泊学習が気に入ったのかよく話をしてくれます。ごちそうをたくさん作った、家のは少ないと言っていました。

ヨーグルトサラダがとてもおいしかったからこんど作ってあげると言ってくれました。話している途中でくたびれたのかこたつでねむってしまいました。

12月11日（宿泊学習3日目が終わった日） 先生よりS子の家庭へ

この3日間、ほんとうによくがんばりました。ずっとずっと働きづめで本人にとってはかなり苦しかったと思います。少し顔色がよくないときもあり、休けいをとったぐらいですから。ほんとうにご苦労様でした、と心から言いたいと思います。今日はゆっくり休ませてあげてください。

……………

S子の日記

今日は、家に帰ってから宿泊学習の作文を書きました。3日間の宿泊学習はとても楽しかったです。作文を書くのに1時間もかかりました。

S子の母親より

この3日間、本当にお世話になりました。

ぎっしりつまった日課に挑戦している姿が見えるようです。今習ったことや苦しかったことが、いつか生きてくれることを楽しみにしています。

食事を作ることを楽しみ、食べてもらうことを喜び、さらにまた今度作ってあげる。そんな気持ちが本人の日記や母親の言葉からうかがうことができる。

#### ⑥ 宿泊作業を終えて

- (i) 11月の職業から今回の宿泊学習まで集中して調理実習すること16回、しかもたった2人だけという少人数のため、1つの調理にしても大勢で分業して作るのとは異なり、全行程を自分で手がけられ、技能を高めることにもとても効果的であった。特にS子はみそ汁にK子は蒸しものには、かなりの自信をもつことができたようであった。そしてK子はさっそく宿泊の終わった次の日曜日、家庭でも実践している。

12月13日(日) K子の母親より 〈生活ノートから〉

……生活センターにどうしても買い物に行きたいと言うので一緒に行きました。

「学校で作った蒸しパンを作ってあげる、家の蒸し器は大き過ぎる」と言い、自分で気に入った蒸し器を買いました。夜はヨーグルトサラダを作ると言い、自分でいる物をどどんかごに入れて買っていました。とてもおいしかったです。よい一日でした。

- (ii) これまでの調理実習は、臨海学校にしても林間学校にしても、自分たちで作って自分たちが食べる、つまり、みんなで作ることを楽しむことが主たる目的であったが、今回は2人だけが人のために作ってあげるという（もちろん楽しみながら作ることを基盤にして）責任があると同時に、たいへん期待される活動であった。自分たちが頑張って作らなければ男子も先生も食べるできないという切迫感、そして食事の度にみんなから感謝される満足感は、少なくとも宿泊作業実習においては、人のためにしてあげられる喜びを味わわせて、彼女たちの意欲を喚起するに充分であった。そしてこれが、家庭の中でも少しずつ生かされていく方向に向かいつつあるようで喜ばしい限りである。
- (iii) 彼女たちが技能的にも高まりつつある点、周囲の励ましや感謝の気持ちが彼女たちを意欲的に活動させた点を、宿泊作業実習のようす報告や生活ノート、あるいは個人懇談を通して家庭にアピールした。彼女たちが家庭生活の中で積極的に生きていくためには、家族全員の暖かい励ましや彼女たちの存在価値を認め活動する場を提供することが、たいへん大きな支えになるということを、実例を通してわかってもらいたかった。

#### 4 学年を解いた集団活動の中で社会化を目指す試み

いろいろな集団活動を通して、すすんで自分たちの問題解決に取り組む意欲を育てながら社会化を目指させたい。特に集団活動の中で、その所属感を高め、能力に合わせて分担した役割りを責任をもって果たそうと努めさせながら、できるだけ自立的積極的な活動をさせたい。

このことから、昨年も取り組んだ「大山林間学校」の学習で、学年、学級の編成を解いた三つのグループ編成による実践を試みた。この中では、大山林間学校の体験が3回目という3年生や比較的能力のすぐれている生徒にリーダーとしての活動を期待しながら、自主的活動をさせることを目標にして展開した。

##### (1) グループの編成

〈昨年までの学習集団〉

C組 B組（2年生）
---------------

A組（1年生）
---------

〈本年の大山林間学校の学習集団〉

3年生			
2年生	ぞう班	トラ班	うさぎ班
1年生			

1年生から3年生までを三つの班に編成した。そして、この三つの班が「自分達は、一緒に仲間なんだ、他の班に負けないようにがんばろう。」と話し合い、班毎に気に入った動物名を選んで班の愛称をつけたり、班長を選び、仕事の分担をきめた。

##### (2) 大山林間学校の学習計画

1. 林間学校の計画をたて、目標をきめる。(6) ( )内は時間数
  - (1) 昨年の林間学校のスライドや写真、思い出文集を見ながら楽しかったことについて話し合う。
  - (2) 今年の林間学校でやりたいことを発表したり、1・2年生の希望を聞いて、日程のあらましをまとめる。
  - (3) 林間学校で事前に準備することを発表する。
  - (4) 班分けをしたり、班の仕事分担、生活目標などをきめる。
2. 班別に野外炊飯の計画をたて、練習する。(9)
  - (1) 食事の献立てに必要な材料を知る。
  - (2) 飯盒でごはんをたく練習をする。
  - (3) きめられた献立ての調理手順を知り、調理実習をする。
3. 班別に分担した準備作業をする。(8)
  - (1) キャンドルサービスの演し物をきめ、練習をする。

(2) 分担した班別の作業をする。

4. 日程表にそって行動できるよう、用品などをそろえて準備する。(4)

5. 帰路の交通機関の利用について学習する。(2)

(1) バスや国鉄の時刻表

(2) 発時刻、着時刻、待合時間

6. 大山林間学校の必要経費を知って、銀行から預金を引き出す。(2)

7. 今までの学習を生かして、大山林間学校に参加する。

8. 大山林間学校の反省をし、みんなの前で発表する。

(1) 班別に反省をして、話し合ったことをみんなの前で発表する。

(2) 班別に反省したことや、先生に聞いたことを簡単にまとめて記録にして残す。

(3) 学級で大山林間学校について話し合う。

(4) 楽しかったことなどを作文に書き、文集を作る。

学習計画の中で太字で表わしたものが、班別学習する内容である。

(3) この実践をするにあたっての方針

・教師間の意思の疎通がなされていること。

学習に入る前に事前に、三つの班の指導者は、その日になされなければならない班別学習、活動について事前に打ち合せをする。

・教師と各班の班長との事前の打ち合せがされていること。

教師は、班別学習に入る前に、班別学習で何を学習し、または、どんな活動をするのか各班の班長に知らせ、具体的に班長は何をすればいいのかを指導しておく。

・各学年においても学習前に、事前扱いをすること。

・各学年でそれぞれ学習内容に対する理解のし方や対応のし方がちがう、このため、各学年ごとに班別の学習内容に対するオリエンテーションをしておく必要がある。

・班別学習をするための事前の取扱い

教師間の打ち合せ	班 長 会	学級扱い	三つの班に分れた班別学習、活動
----------	-------	------	-----------------

職員朝会后を利用  
して(10分程度)

朝の会の前  
放課後(10分程度)

朝の会を含めて  
(10分程度)

(4) 指導の実際

① 自主的なグループ活動のために一トラ班の活動から一

・〈トラ班のメンバー〉

氏名	学年	性	CA	MA	特記事項
N 夫	3 年	男	15.0	7.2	自分にまかされた仕事は責任をもってやろうとする。少しずつ自分から進んで発表したりする面も出てきた。
S 夫	3 年	男	18.0	4.8	少しの刺激的なことば、行動に対して興奮しやすい。自分から進んでやろうとするが、作業は長つづきしない。
H 男	2 年	男	14.2	9.1	まかされた仕事は、責任をもってやろうとする。アイデアなどもよく発表するがいかげんな発言もある。
T 子	1 年	女	13.1	7.1	学習には意欲的に取り組むが、知識、技能が伴わない。あたえられた仕事を最後までまじめにやろうとする。

キャンドルサービスは、今年の大山林間学校でやりたいことベスト3の中の一つである。それだけに、生徒の活動に対する取り組みが意欲的になっており、各班の出し物に対する取り組みも積極的になることが期待された。

・出し物の練習

キャンドルサービスの出し物を相談する段階で「うた」「おどり」などの意見は出るのだが具体的なことになるとかなり教師のアドバイスを必要とした。テレビ、まんがなどいろいろなサジェッションしながら、とにかく「タイガーマスク」を引き出した。このあと衣裳のことになると比較的簡単で、さし絵を参考にして何とか相談ができた。だが、これらの出し物の練習に十分な時間があるだろうかと考えると不安であったが、ここで教師の方からもう一步つっこんで、紙芝居、劇、人形劇などを加えてはという意見を出してみたところ、生徒は紙芝居に非常な興味を示した。こうした中で、トラ班のリーダーとなったN夫がリーダーらしく、「放課後残ってしよう。下校バスにまに合わなかったら、4時14分や4時32分のバスがあるけ。汽車は6時1分にしたら良いけ」という。班員の中に彼と同じ方面から通学しているT子がいるので、N夫に「T子も一緒につれて帰ってくれるか。」というと、N夫は元気よく「うん」と答えて上級生ぶりを発揮した。

H男の方も、時間があるときや美術の時間にするという。H男は絵がうまく、アイデアマンらしく「トラ班のペナントを作らんといけんから、家からタイガーマスクの旗をもってくる」といってはりきっている。

次の時間、N夫は班長として、その日の作業内容を班員に指示する。ところが、それが「色ぬりをしてください。」という指示だけなので、班員は何をしていいかわからずにいる。もちろん色ぬりをするために必要なクレパス、机の準備もできていない。N夫は自分では何をするのか理解しているから、一人だけトラの面に色を付けている。ここで教師はN夫に、班の人に色



ぬりの準備をするのもっと具体的に指示を出すよう指導した。

それ以後、トラ班では、ペナント、日程表を作り、ゲーム大会の準備をしたが、比較的スムーズに運んだ。

大山林間学校がまじかにせまったある日、ちょうどその時間はトラ班を担当しておられたM先生とH先生が、仕事の都合で班別学習に出れなかった。班別学習に入るまえに班長会でN夫にそのことを連絡していたら、N夫はキャンセルサービスの踊りの練習をするという。

班別学習に入り、トラ班の教室から、タイガーマスクの音楽が聞こえてくるのでふとのもぞいてみると、トラ班のメンバー4人が頭にお面、マントのかわりに風呂敷をかけて、タイガーマスクの踊りの練習をしていた。トラ班のメンバー4人がひとつにまとまって、先



生の指示がなくても、こうして自分達だけで出し物の練習をしている姿に感心をした。これは何がこのような自主的態度を生み出したのだろうか。トラ班のチームワークのかげに、N夫の目立たないリーダーとしての働きに着目してやりたい。

② リーダーを育てる－H郎の指導から－

・〈ぞう班のメンバー〉

氏名	学年	性	CA	MA	特 項
H 郎	3 年	男	14.11	7.10	学習面では自分の意見など積極的に発表しようとするが、与えられた仕事に対する責任感にやや欠ける。
M 夫	3 年	男	15.2	6.2	集中力に欠ける面がある。アイデアマンであるが、時としていかげんな発言や行動がみられる。
F 男	3 年	男	14.11	5.10	軽い興奮状態が続いているために、集団行動がとりにくい。自分勝手な行動があるが、意欲は十分にもっている。
S 子	2 年	女	14.3	8.5	学習に対してまじめに取り組む。積極さは少ないが言われたことに対しては責任をもってやろうとする。
Y 男	1 年	男	13.1	7.1	学習に対して、積極的に取り組もうとする。自分勝手な行動がみられる。世話好きである。

・日程表づくり

H郎は、班別学習の事前取扱いの班長会で、ぞう班は、22日の日程表をつくる予定であるという。班別学習が始まる前に教師と一緒に模造紙、筆記用具を準備して日程表の下書きをする。

その後、班員と日程の各項目を短ざくに書く作業に入る予定であった。

H郎は、前に出て班員に「日程表を作ります」というが、準備する品名など具体性がないため徹底しない。H郎に準備する物、場所、割当てなど具体的に指示することを助言した。H郎はマジックインキの準備をさせたが、日程表の各項目のどの部分を、誰が書くのか分担を決める段になるとつまってしまい助けを求めてくる。この段階では、教師が各項目について、誰が書くのか指示をして作業に入らせた。H郎自身には、班員が書いた短ざくをまちがいないか確かめさせ、それを模造紙に貼っていかせた。

日程表は、結極時間内にはできあがらず、作業中途のままで終了した。その日の放課後、美術室にいるH郎とM夫が、一所懸命に班員の書いた短ざくを、模造紙にのりづけをし、貼りつけて完成してくれた。

・ぶた汁づくり

ぶた汁づくりは、大山林間学校までに、計3回練習をした。そのめやすとして、1回目の調理実習は「手出し」「口だし」可。2回目は「口だし」のみ。3回目は生徒達だけで、できるだけやらせてみることにした。第1回目の実習のようすは下のようであった。

活動内容	教師の指導	班長(H郎)の活動	グループ員の活動
前日取扱い 当日の学習 準備	班長に調理実習の予定とエプロンの持参を班員に連絡するよう指示する。	先生の指示を班員に連絡する。  エプロンを忘れてきて調理室に入っていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>Y男、S子はエプロンをつけ、いち早く調理室にくる。</li> <li>M夫はエプロンの紐を結んでもらう。</li> </ul>
作業の説明	ぶた汁づくりの調理図を使って作業の内容や方法を一斉指導する。(70頁を参照)		
ぶた汁づくり	M夫に班長の指示を受けるように言う。  班長にF夫の皮むきについて削り方の注意をするよう指示する。  F夫に対する班長の指示の過りに気づき、F夫に大根の皮のむき方を指導する。  班長に肉の始末についてどうするのかと質問する。 M夫の質問にたいし班長に相断するよう回答する。  F夫に作業の後始末を指示する。	M夫の質問に「せえや!」といって同意する。  F夫に大根の皮むきを止めるように指示をしてしまう。  H郎は班員の切った材料をボールに入れて洗う。 Y男に「やりんさい」といって肉入りパックを差し出す。 M夫に質問され「いれんさい」と指示する。 班長とY男は、ふたりで味噌を入れて味付けし、味見をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>M夫が「大根を切ろうか」と教師にきく。</li> <li>S子は班長の指示がないのに、自分で作業をみつけ、さつまいもの皮むきを自主的にはじめる。</li> <li>F夫は大根の皮むきをやり始めたが中身まで削り取っている。</li> <li>班長の指示によってF夫は大根の皮むきを止める。</li> <li>M夫の大根を切っている作業を「私は女だから…」といって交臂する。</li> <li>M夫は白ねぎを切る。切り終わった後はねぎをそのままにして、他の班の作業に気をとられて立っている。</li> <li>F夫は先生と一緒に大根の皮むき作業をする。</li> <li>S子は自発的に人参、こんにゃく、野菜を切ってさっさとボールに入れている。</li> <li>Y男が、まだ切れていない肉を見て担任を見て指示をまつ表情を見せる。</li> <li>M夫は鍋の中に肉を入れて良いか担任にきく。</li> <li>M夫は班長の同意で肉を鍋に入れる。</li> <li>F夫は作業後の残さい、器具を放り出している担任に注意されて後始末をする。</li> <li>班長の指示でF夫は茶わんを取り出すが、個数を数えるのに苦労する。(最終的には教師と一緒に数える。)</li> </ul>
会食の準備	班長に食卓の準備を指示する。	M夫に茶わんを洗うよう指示する。	
会食	中 略		
後始末	班員に使った道具類は、他の班の道具と一緒にならないよう一カ所にまとめるよう指示する。(場所を指示する。)	班員に「ここに、おとおきんさい。」といって道具類をあつめる場所を教える。 M夫と一緒に食器を洗う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>M夫は班長と、食べ終わった後の食器を手ぎわよくあらって、茶わんかごにふせている。</li> <li>S子は使い終わった器具をきちんと洗い拭いてから指示された場所におく。調理台の後片づけもよくできた。</li> </ul>

ぞう班は、H郎を含めて3人の3年生、技能・態度ともにH郎よりも優れている2年生のS子。1年生ではあっても、日ごろ調理なれしているY男のメンバーである。

第1回目の調理実習では、班員は班長のH郎に指示を受ける前に担当の教師の方に指示を受けにきた。またH郎自身、技能的にも他のメンバーとそれ程の差がなく、M夫などが「～をしようか。」と尋ねれば「～しんさいな」といった調子で、先生の助言を得ないで自分の判断で指示が出されたことが殆どなかった。

この後、教師はH郎の家に連絡を取り、家庭でお母さんと一緒にぶた汁を作る体験をさせてもらうよう依頼した。

(H郎の母からの連絡)

いもほり大会から持って帰ったいもを使って、H郎にぶた汁をつくらせました。私はそばにいてH郎が作るのを見ていました。手順表を見ながら自分ひとりで作りました。作ったぶた汁を隣のおばさんに食べさせてあげるといって持って行きました。家族みんなで、とってもおいしいといって食べました。本人も満足げで三杯もおかわりしました。

家から自分ひとりでぶた汁が作れたということが自信になったのか、2回目の実習では調理の道具、材料などもひとつひとつチェックしていきながら班の人にうまく指示が出された。ぶた汁を作る段階でも1回目にくらべると、班の人に対する指示も多くなってきた。

ただ、この時は、本人はあまり作業をせず指示ばかりしていると担当の先生から注意を受けた。3回目の実習では、教師は全くといっていいほど手を出さなくても、最後の後始末まできちんとできた。

この実習経験が大山林間学校でH郎はリーダーとして、また班員はそれぞれ分担した作業をチームワークよく楽しく野外炊飯をして、おいしいぶた汁をいただくことができることに、非常に役に立ったことはいうまでもない。

(5) 指導を終えて

今回、学年を解体した集団での学習をこころみ、その中で、それぞれが自分の役割りを責任をもってやろうとする姿が数多く見られた。特に、班の中のリーダーとなった生徒は、自分がひとつの班のリーダーなのだという自覚から、休憩時間や放課後などを使って、自分の班で分担した作業をやりとげようとした姿勢は、今までの学習には見られなかった積極的な取り組みと考えられる。しかし、後日N夫の口から「僕たちはエリートだ」ということばが出たことは、この度の学習に当たり、班長の役割りや活動に視点をあてて指導が偏りすぎたためではないかと反省をしている。今後の指導に当たって、十分留意しなければならない点であると思う。

## 5 反省と問題点

私たちは、確かな生活力を身につけることを目指して実践を重ね、いくつかの実践例を挙げて報告をした。しかし、この実践の跡をふりかえって見て、留意すべきことや問題点が浮び上がってきたので、その一端を掲げて今後の研究や実践の足がかりとしたい。

- (1) T子の調理実践の例を見るように、ガス点火だけでいい。湯がわかせるらいい。こんな小さな願いが結果的にはカレーを作るところまで育ててきた。精神薄弱教育において、興味→意欲→技能→賞賛→自信→意欲の指導のサイクルが大切であることがわかる。

とくに、調理に自信がついて家庭の中でも役立ち、まわりに認められることで、学校の生活の中でも積極的な行動が見られるようになったことは、「集団生活に必要な生活技能を高めること。」これが社会化の重要なポイントであることを十分裏づけたものと言える。T子は明らかに生活技能を身につける過程で社会化を目指していたのである。

- (2) 一方、ご飯をたく準備に見るように、一見簡単な作業と思えることに對し、米をこぼす、米の量が計れないなど運動感覚機能の未熟さや、数能力の低さが障害となって作業が停止してしまう。

作業の基礎となる表現能力を高める学習が並行してなされなければならないことを痛感すると同時に、これを補う治具、補助具や簡便法を工夫することが大切だと感じさせられた。

- (3) 第二の実践例、S子とK子の宿泊作業実習での活動は、学習の内容と方法が生徒の興味関心を高め、意欲的な活動をさそったことも考えられるが、ただそれだけでは解釈できない面もある。第三日の調理以外家庭生活そのものの作業まで意欲的にこなしていった根底には、「みんなのためになる」という人の役に立つ喜びを感じることができたためでないだろうか。自分の将来についての見通しがもてない精神薄弱児にとって、将来の社会自立のために学習する自覚よりも、現在の学習そのものの受け止めしかないであろう。したがって、社会化を目指す学習は、学習設定の基盤に人の役に立つ、みんなに喜んでもらうなどのように、常に自分とまわり、集団、社会を関わらせて行動す(考える)意識をもたせる必要があるのではなかろうかと考えるわけである。

- (4) 精神薄弱の子が将来リーダーとして活動することは、殆どないといってよいだろう。だが現にグループを作って活動している以上、何らかのリーダー的役割りは必要であり、また、その役割りの者を育てることにより自主的な活動も育つ。こう信じてリーダー指導に取り組んでみた。

結果的には、「～を相談する」「～を話し合う」「～をきめる」などの会議的内容については、非常に困難な問題が多い。しかし、実践例のように「～を作る」「～をする」のような作業的な内容については、手だてによってはリーダーとしての活動も可能であるし、また

自主的な活動も比較的可能である。この場合、少なくともリーダーには作業に対する技能や見通しが持てることが必要であろう。

ただ、ここで問題になるのは、実践の中にも出てきたことであるが、自己統制力の不足する彼等には、リーダー即偉い人。命令する人。いばる人。大将など誤った受けとられ方をし、マイナスの事例をつくり出すことが多いようだ。この点を十分考慮して指導に当たらなくてはならないと思う。

- (5) 最後に、ここに取り上げた実践例は、いずれも家庭との提携を考えながら展開したものである。家庭には随分強引な指導内容や方法を押しつけたのではないかという反省をもちながらも、そのことによって予想以上の効果を挙げることができたと思う。

特に精神薄弱教育では家庭との提携がなくては成立しないし、効果も期待できない。だがどの家庭も教師の思う程の対応が可能であるかという点になると、むしろその逆の場合の方が多いだろう。こうした場合、教師としては生徒の指導に当たって、生徒それ自体の問題点を把握して対策を立てるだけでなく、これと並行してこの指導を家庭にどうつなげようかを考えなければならない。そして、家庭での指導可能な方法はどうかということ、家庭の実態に即して考えなければならないのである。

結局は教師が生徒の家庭をよく知っていなければならないということである。